

# JASIAS 2019 in Yamagata



日本映像学会 第45回大会  
第3通信

## 大会テーマ

### ポスト・ノスタルジー：映像メディアと記憶の問題

第45回日本映像学会のテーマは、「ポスト・ノスタルジー：映像メディアと記憶の問題」です。多様な映像メディアを横断する映像と記憶の問題を、「ノスタルジー」をキーワードに論じようとするものです。

映像を取り巻く状況は、多様を極めます。遍在する映像とカメラは、映像の時間性にも変化を生じさせつつあります。その一方、映像的記録は、過ぎ去りつつある現在をたちまち懐かしむべき過去に後退させ、時には倒錯的とも言える心的距離を生じさせるでしょう。それを我々はとりあえず「ノスタルジー」と呼ぶことにしましょう。それを、ただ批判の対象とするのではなく、ニュートラルな視点から再考することによって、(かつての)ノスタルジー以後に来た(そしてこれから来るかもしれない)新たなノスタルジーの地平を模索したいと考えます。

第45回実行委員長 阿部宏慈

## 大会概要

会期 2019年6月1日[土]・2日[日]

会場 山形大学 小白川キャンパス  
(山形県山形市小白川町1丁目4番12号)

参加費 会員 3,000円 / 一般 2,000円 / 学生 1,000円

懇親会費 5,000円

問合せ 日本映像学会第45回大会実行委員会 事務局  
(山形大学 人文社会科学部 附属映像文化研究所内)

電話・ファクス：023-628-4227

email：yamagata-convention@jasias.jp

ウェブサイト：http://jasias.jp/eizo2019/

## プログラム

### 1日目 6月1日[土]

- 12:00 受付 (人文社会科学部1号館入口)
- 13:00-13:30 研究発表、作品発表  
(会場：101-103教室、201-207教室)
- 14:00-14:30 開会式 (会場：基盤教育棟2号館222教室)
- 14:30-17:30 シンポジウム  
「ポスト・ノスタルジー：映像メディアと記憶の問題」  
基調講演：  
片渕須直 (アニメーション映画監督、日本大学芸術学部特任教授)  
「映像は、その人が体験していないノスタルジーをも醸し出すことができるのかもしれない。それはなぜ……」
- 発表：  
石田美紀 (新潟大学)  
「子どもという過去 —ノスタルジーとアニメ」  
筒井武文 (映画監督、東京藝術大学)  
「映画表現における時間の逆説」
- ディスカッション：  
登壇者 片渕須直、石田美紀、筒井武文  
司会 大久保清朗 (山形大学)

18:00-20:00 懇親会 (会場：厚生会館 [キャンパス内])

### 2日目 6月2日[日]

- 10:00-11:50 研究発表、作品発表 (会場：1日目と同じ)
- 12:00-13:20 昼食休憩
- 13:30-14:30 第46回総会 (会場：基盤教育棟2号館222教室)
- 15:00-16:50 研究発表、作品発表

※大会時、大学周辺の飲食店はあいておりません。また、コンビニエンスストア等も少ないため、事前にお買い求めになることをお勧めします。

## 会場までの交通案内

JR山形駅から：  
市内路線バス「県庁前・県庁北口」行きで「南高前・山大入口」下車 (所要時間6分)、そこから徒歩7分。

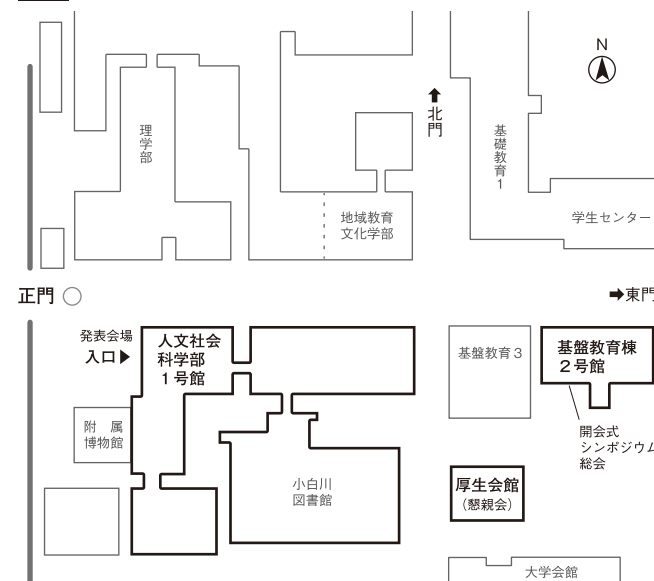
JR仙台駅から：  
高速バス「山形行き」で「南高前・山大入口」下車 (所要時間55分)、そこから徒歩7分

参考/山形大学ウェブサイト《アクセス》  
<https://www.yamagata-u.ac.jp/jp/access/#koji>

※駐車場は利用できません。

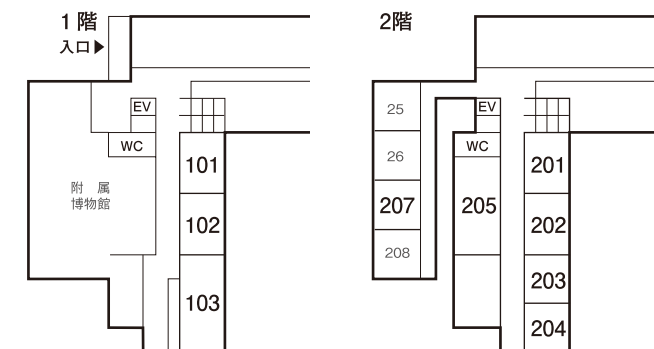
## 会場マップ

### 全体図



### 発表会場

#### 人文社会科学部1号館



#### 日本映像学会第45回大会実行委員会

実行委員長 阿部宏慈 (山形大学)

副委員長 大久保清朗 (山形大学)

委員

加藤到 (東北芸術工科大学)

松村泰三 (東北芸術工科大学)

岡達也 (東北芸術工科大学)

畑あゆみ (山形国際ドキュメンタリー映画祭)

村山匡一郎 (山形国際ドキュメンタリー映画祭)

日下部克喜 (山形国際ドキュメンタリー映画祭)

小川直人 (せんだいメディアテーク)

日本映像学会第45回大会 第3通信

発行日：2019年5月10日 発行者：日本映像学会第45回大会実行委員会

プログラム

|                |   |  |  |  |   |  |                          |  |              |              |
|----------------|---|--|--|--|---|--|--------------------------|--|--------------|--------------|
| 1日目<br>6月1日[土] | 会場  | 研究1<br>101教室                           | 研究2<br>102教室   | 研究3<br>103教室                               | 研究4<br>201教室  | 研究5<br>202教室   | 研究6<br>203教室             | 研究7 / 作品1<br>204教室                     | 作品2<br>205教室 | 作品3<br>207教室 |
|                | 13:00<br> <br>13:30   | 研究1a：平野大<br>映画『プレステージ』に見るカナリアの象徴的意味と役割 | 研究2a：<br>モルナール・レヴェンテ<br>悪魔が踊るとき<br>—タル・ペーラ監督の『サタンタンゴ』における運動と空間 | 研究3a：黄也<br>成瀬巳喜男作品における〈働く母〉—〈田中絹代三部作〉をめぐって | 研究4a：太田曜<br>フォトセノグラフィで撮影されて作られたエミール・レイノワールのフォトバンチュールアニメ | 研究5a：鳥山正晴<br>インタラクティブ・ドラマの可能性—Netflix『ブラック・ミラー バンダースナッチ』を考える | 研究6a：赤井敏夫<br>インド映画撮影所の現在 | 研究7a：野地朱真<br>ステージパフォーマンスのためのプロジェクト映像制作 |              |              |
|                | 14:00 開会の辞（基盤教育棟2号館222教室）<br>14:30 シンポジウム「ポスト・ノスタルジー：映像メディアと記憶の問題」片瀬須直、石田美紀、筒井武文<br>18:00 懇親会（厚生会館） |  |  |  |   |  |                          |  |              |              |

|   |                     |  |   |   |   |  |   |   |   |   |
|---|---------------------|--|---|---|---|--|---|---|---|---|
| 2日目<br>6月2日[日]                          | 10:00<br> <br>10:30 | 研究1b：矢澤利弘<br>ダリオ・アルジェント作品における殺人シーンの変化                | 研究2b：倉田麻里絵<br>映画に現れる作曲家ルグランの声             | 研究3b：具慧原<br>小津安二郎の「日本的なもの」をめぐる言説—小津の同時代の批評を中心に    | 研究4b：田中素子<br>アニメーションにおける黙示録的表現<br>—「東京マグニチュード8.0」 | 研究5b：北市記子<br>コミュニケーション・メディアとしての「ヴィトリース」                                      | 研究6b：平野知映<br>3校の高等学校によるプロジェクト<br>制作から展示まで<br>—ICT教育とアートの関係性について   | 作品1a：栗原康行<br>地域及び地域企業との協働による環境問題啓発映像制作について—実用作品としての映像コンテンツ制作と教育効果について | アナログメディア研究会<br>東北芸術工科大学図書館所蔵の1970年代以降に制作された日本の短編実験映画を16ミリフィルムで上映。<br>『ヘリオグラフィ』(山崎博)ほか | 発表作品のループ上映<br>●<br>●<br>●<br>●<br>●<br>●<br>●<br>●<br>●<br>●<br>●<br>●<br>●<br>●<br>●<br>●<br>●<br>●<br>●<br>●<br>●<br>●<br>● |
|   | 10:40<br> <br>11:10 | 研究1c：早川由真<br>〈ニュー・ハリウッド〉期のリチャード・フライシャー—映画の身体と暴力の観点から | 研究2c：茂木彩<br>濃透するイメージ—クレール・ドゥニの親密さ         | 研究3c：前川道博<br>小津安二郎作品の形式システム再考—「晩春」「妻秋」「東京物語」の構造分析 | 研究4c：西村智弘<br>1920年代の日本における抽象映画論者—岩崎昶の「絶対映画」とその周辺  | 研究5c：水野勝仁<br>インタラクションにおける映像の物質的質感—ISSEY MIYAKE「DOUGH DOUGH」のウェブサイトが示す「マテリアル」 | 研究6c：安部裕<br>「大地の芸術祭」における廃校を利用した生中継番組の配信—IP生中継システムの学生運用実験          | 作品1b：柴岡信一郎<br>2016・2020年東京五輪を歩く—変貌する街並みと魂の叫び                          |   |   |
|   | 11:20<br> <br>11:50 | 研究1d：堅田諒<br>ジョン・カサヴェテスの方法—「こわれゆく女」における俳優演出と時間性       | 研究2d：駒井政貴<br>ルイ・ドゥリュック『沈黙』における一人称表現とモダニズム | 研究3d：韓承甫<br>小津映画における「笑顔」—その消去と再生について              | 研究4d：小出正志<br>メディア芸術の定義とアニメーションの概念と現象              | 研究5d：原田健一<br>木村伊兵衛とプロバガンダ  | 研究6d：<br>宮下十有・加藤良将<br>映像作りで拓く映像リテラシーのこれから<br>—児童を対象とした映像制作ワークショップ | 作品1c：小林和彦<br>[[FN-02]   | 作品2a：水由章<br>『Perception』<br>—SCOOPIC16Mでの多重露光   |   |
| 12:00 昼食<br>13:30 第46回総会（基盤教育棟2号館222教室） |                     |  |   |   |   |  |   |   |   |   |

|  |                     |  |   |   |  |  |   |  |   |  |
|--|---------------------|--|---|---|--|--|---|--|---|--|
|  | 15:00<br> <br>15:30 | 研究1e：高崎郁子<br>『強迫』にみる、監禁された男性表象—エドワード・ドミトリクの赤狩りとその反映についての考察 | 研究2e：李璣恩<br>朝鮮と日本の女性主演映画からみる女優史の比較的考察—『迷夢』(1936)と『浪華悲歌』(1936)を中心として | 研究3e：阿部久瑠美<br>日本映画におけるジャンル研究の可能性—東映プログラム・ピクチャーを中心に                          | 研究4e：竹林紀雄<br>TVディレクターの著作権意識についての一考察—テレビ番組を制作したのは誰なのか         | 研究5e：萱間隆<br>トーキー移行期における劇映画のアフレコ言説                                | 研究6e：藤田修平<br>喪の共同体と映画                             | 作品1d：杉田このみ<br>『今日、この島に私がいます』—愛媛の離島・睦月島を舞台にした映像プロジェクト | 作品2b：大橋勝<br>プリコラージュとしての映像制作「光の書誌学のために」                      |  |
|  | 15:40<br> <br>16:10 | 研究1f：吉村いづみ<br>ジョン・ブルと戦時貯蓄証書—英国における第一次世界大戦時の国内向け宣伝映画        | 研究2f：久保豊<br>息子／監督としての記憶—木下恵介のホームムービーを分析する                           | 研究3f：角尾宣信<br>敗戦後日本の経済体制と天皇制の風刺としての「社長シリーズ」—「三等重役」(1952年)と「社長太平記」(1959年)を中心に | 研究4f：飯岡詩朗<br>「ニュー・メディア」を騙るTVドラマ／映画—2つの「マーティ」(1953/1955)をめぐって | 研究5f：織田理史<br>現代映像メディアにおける「ノスタルジー」の特異性について—ドゥルーズの反復哲学の今日的妥当性をめぐって | 研究6f：坂本憲信<br>デザイン基礎教育における静止画および動画の複合的表現による授業実践の試み | 作品1e：芦谷耕平<br>[VENTO AUREO]                           | 作品2c：伊藤隆介<br>『昼V op.53b』—映画フィルムのフレーム、ビデオ画面分割によるスプリット・イメージ表現 |  |
|  | 16:20<br> <br>16:50 | 研究1g：河慧柱<br>『ロード・オブ・ザ・リング』における人種差別とポストコロニアリズム              | 研究2g：草原真知子<br>写し絵の成立過程に関する検証と考察                                     | 研究3g：田中晋平<br>小川プロダクション『どっこい！人間節 寿・自由労働者の街』の上映運動について                         | 研究4g：百束朋浩<br>和製英語「MA」という言葉の成立過程                              | 研究5g：住本賢一<br>デイヴィッド・ボードウェル「フィクション映画の語り」における先行映画理論への批判と能動的な観客像の意義 | 研究6g：山本努武<br>景観情報の空間的表現に関する研究                     |  | 作品2d：川口肇<br>『MIRROR / RORRIM』—デジタル／フィルム撮影・上映プロセスの混交による表現    |  |